

海洋・宇宙連携の本年度の検討の進め方

平成27年度 海洋・宇宙連携委員会 End-to-Endユーザグループ
第1回検討会

平成27年10月6日

これまでの経緯

- JAXAでは、海洋基本法の作成に密接に関係した有識者、ならびに海洋観測データを用いた研究や実利用分野での利活用を積極的に行っている研究機関、大学、企業等の有識者により構成される「海洋・宇宙連携委員会」を平成20年度に設置し、海洋と宇宙が連携する具体的な施策について詳細な検討を継続して行ってきた。
- その過程において、海洋状態把握のためのデータ処理解析には共通的な技術要素があること、各分野を横断し、衛星観測と現場観測を含む種々の観測データを相互補完する形で一元化・統合化し、こうして得られた観測データをモデルに同化し、それに基づいて予測・予報情報に高度化するための核となるシステム・サービス（「コアサービス」と呼ぶ）が必要であるとの結論に至った。
- JAXAでは、平成27年度も、コアサービスの実現に向けた具体的な活動に対し、その方向性や内容等についての検討、審議を行うため「海洋・宇宙連携委員会」を継続し、また、エンドユーザの利用ニーズに対応する海洋情報提供サービスを事業として展開する観点からコアサービスへの要求条件を明確にするため、「海上安全・海洋再生エネルギー」、「水産・沿岸環境」のユーザグループ（E2E分科会）を継続することとした。

平成26年度におけるE2Eユーザグループの成果

海上風、塩分、海氷、波浪、海面高度について、コアサービス提供プロダクトメニューを検討

- 平成25年度に検討したSST、SSC、海流プロダクトに加え、海上風、塩分、海氷、波浪、海面高度、についてのプロダクトメニューを検討

ユーザ
要求書V2

コアサービスが提供するプロダクトのカバレッジ範囲について、ユーザ要求との対応を整理

- 海面水温、海色、海流／潮流、海上風、塩分、海氷、波浪、海面高度、高分解能画像について、ユーザが必要とするプロダクトの対象範囲に対する要求を整理
- 日本周辺(EEZ)のニーズが最も多く、日本周辺に特定海域(日本)のニーズを合わせると全体の約62%を占める結果

ユーザ
要求書V2

コアサービスのデータアーカイブ期間についての考え方を提示

- リアルタイム性重視、管理・メンテナンス・品質保証、等の点から、アーカイブ期間を1年間として仮設定
- 1年間とした場合のカバーしきれないニーズはどのようなものか、等について議論

コアサービス／標準WebGISデモンストレーションを実施(ビジネスベンチマーク活動)

- 沿岸漁業、遠洋漁業、環境評価、海上安全、サービス安定化の5分野を対象に実施
- 具体的な利用イメージを基に議論

平成27年度のE2Eユーザグループのスコープ

- 本年度は、E2E分科会では、コアサービスへの要求条件を明確にすることを目的として、計3回の会合を開催し、以下の項目を中心に検討・議論いただくことを想定している。

■ コアサービスが提供するプロダクト関連

- アンシラリ・In-Situデータへの要件、プロダクトメニュー案
- 追加プロダクトメニュー案(船舶、高分解能、等)
- 統合観測ネットワーク



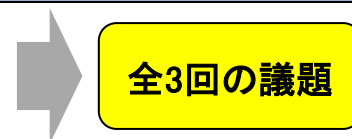
■ コアサービスの利用条件、サービス要件関連

- データポリシー
- 品質管理
- ヘルプセンター



■ コアサービスの活用方策関連

- ビジネスベンチマーク活動



平成27年度の検討の流れ(案)

